

	<p>2015年 3月15日 第107号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 <a href="http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/">http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</a> E-mail : <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a> 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124</p>
---	---

# 庭先に飛来する野鳥のこと

狭くて日当たりが悪くなってきた狭い庭だが、園芸を半世紀も楽しみ、あれもこれもと持ち込んで手入れが行き届かなくなり、家族には藪だと酷評されている。挿し木、接木そして種から育てるのが好きで、いわゆる整った庭でなく苗（木）の圃場のようなものだが一木一草にも愛着が湧くのは、愛好者なら頷いていただけなのではないだろうか。

花に比べて実は観賞期間が長い上、味覚でも味わえるので果樹も増え、育ってきて手狭になり剪定が欠かせないが、手に負えなくなるからと間引いたりする。草や樹木だけでなく庭にやってくる鳥や虫も観察し、撮った写真を知人友人に送ることも楽しみのだ。以下に庭先で観察した野鳥についてご報告する。

庭にはヒヨドリがよく来て池の水を飲み水浴びをし、シジュウカラが水を浴びた事もあるが、キジバトや冬に来るツグミが水に入るの  
は見していない。

何年か前にサギの仲間の大きな鳥が舞い降りて金魚をさらって行った。

狭い庭で野鳥は人の気配を察すると直ぐに逃げてしまい、写真を撮るのに苦労し、そっと覗いていることが多いが、今までに来た小鳥はヒヨドリ、シジュウカラ、メジロが多く、キジバトや最近少なくなったスズメも偶に来る。冬にはツグミが落葉を掻き分けて餌を探し、ジョウビタキが何度か現れるが、みな人間に敏感な鳥たちだ。コゲラもやって来たが、手入れが困難になるからと大きな木を少し整理したためか最近見かけない。以前、近くで巣立ったばかりの猛禽類のツミが



庭木にたまたまコゲラも来た

舞い降りたことがある（会報38号に写真）。ムクドリは近所の家の戸袋で営巣したのを何回か見たが、家の庭には来たりしない。狭い上に熟柿をたくさん残しておかない所為かもしれない。

スズメは時折庭に下りて来てくるが、以前より大分数が減ったように感じている、土を使って葺く瓦屋根が減ったのが原因か知らん、昔は繁殖期には街のあちこちで屋根裏から雛の鳴き声が漏れ聞こえ、暑い日には苦しくて巣から零れ落ちた赤裸の雛をよく見た。

4年前にシジュウカラを目当てに柿の木に巣箱を掛けたが、最初の冬は見向きもされず、2年目は覗きこんだだけ、3年目の去年やっと出入りしたが子育てはしなかった。箱の中を調べたが営巣の痕跡はなく、一匹のヤモリが出てきた。今年は更に進展があることを期待してはいるのだが・・・、箱の高さが小さい（入り口の下端から底まで12cm）ため気に入らないのかと思ったりしている。徳丸に住みついた頃、自作の木製郵便受けにシジュウカラが卵を産んだ記憶がある。

庭の木や草の実の小鳥たちの貴重な餌になるが、近所には沢山実を付けた樹があるのに、何故か我が家の貧弱な木々が真っ先に狙われる。目立つ赤い実のナンテンやウメモドキが先ず狙われるが、センリョウやアオキは2番手で地上近くに生るマンリョウも最後には全部喰われる。草ではフユサンゴは赤くなるのを待ちきれずにやって来る。ヤブランは実が目立つので早々と食われ、シロバナヤブランの実は緑から白・空色と変るのだが、緑色のうちに全て消えてなくなり、鮮やかな色の実は観賞できず、白い花を楽しむことしか出来ない。ジャノヒゲも葉陰の実まで捜して食される。玄関先に飾った鉢植えの百両や十両も狙われ、1月の末には庭の実という実は食いつくされるが、殆どがヒヨドリの仕業であり、我が家には遅い冬鳥が来て食べる実が残っていない。

木や草の実ばかりでなく、キャベツやブロッコリーなどアブラナ科の葉が食われることは園芸家には良く知られているが、庭でロウバイの葉を食ったヒヨドリを見たことがある。真黄色な花のソシンロウバイは花期に葉はないが、花芯が茶色のロウバイは花が咲いても緑の葉があり、これを盛んに千切って口に入れていたのだ。最近では人間界でもエディブル・フラワーが人気だがヒヨドリは花も



庭木にかけた巣箱



ヒヨドリに喰われて無残な黄花のプリムラ・ポリアンサ



大好きで、ツバキは蜜や花粉が目当てに来るのだけだと思っていたが、花卉、特に白花ワビスケが好物で、咲くそばから食い荒らしていく。西洋サクラソウのプリムラ・ポリアンサの黄花もよく食われるが、今年はラッパズイセンの花弁を食われたのには驚いた。柑橘類は酸味の強いユズは3月になっても残っているが、ミカンや金柑、橘は早々に食われてしまう。人に驚かないヒヨドリの食欲さには本当に感心する。

冬の餌が少ない期間には僅かばかりの餌を供したりする。えさ台は直径十数センチの深めの鉢を庭木に吊り下げたもので、餌は主として食べ残した果物、私が好きなリンゴは皮と芯を細かく刻んで与えると、あっという間にヒヨドリが平らげるので、生ごみ処分の手助けになると喜んでいる。

メジロはヒヨドリが居ると餌に近寄れず遠くで控えるが、ヒヨドリ同士でも順位があり、一羽が独占し順位の低い鳥は近くで控えている。この現象はメジロも同じで、冬は群れで過ごし、押しくら饅頭して枝に止まるところから「目白押し」の言葉が生まれたくらい仲が良いのに、餌場では強い順に一羽づつ餌を啄ばんでゆく、えさ箱が小さい時の現象なのかもしれないが、自然界の掟はきびしいようだ。

小鳥が来ると必ず置き土産があり、色々な植物が生えてくる。エノキ、ムクノキ、ヤツデ、マキ、シロダモ、モッコク・・・などがあり、庭にもあるセンリョウやマンリョウ、ナンテンもよく生え、ジャノヒゲやオモトなどの草もあり、いつの間にかウマノスズクサが生えてきた。こんな置き土産も気に入ると育てみたくなったりする。

以上、家に居ながらの横着な観察で見たり感じたりしたことを記したが、見ていない時間帯が長く見落とした事も多く、書きもらした事もあるかと思うので、お気づきの点をご指摘、ご助言がいただけると幸甚です。(猪鼻昭二)



ラッパズイセンだってヒヨドリの餌食



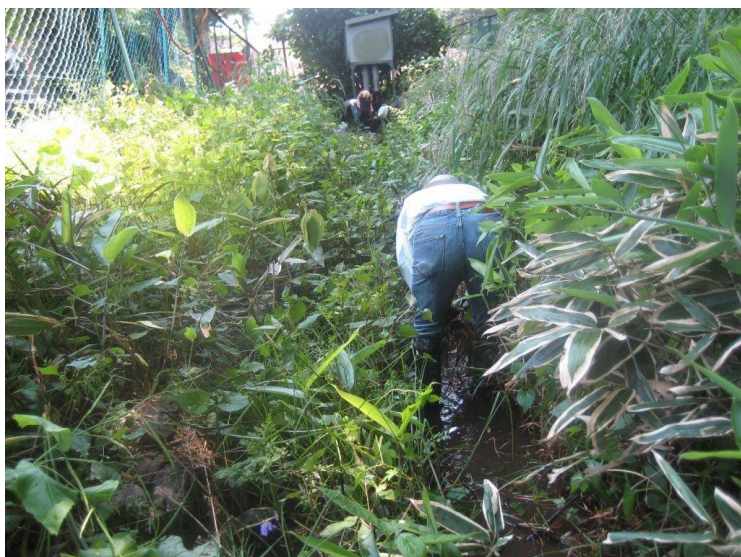
目白押しは食事中には無縁の縦社会です

# トンボ池に湧き水がくるまで

トンボ池水路の工事は終わったのですが、水路の手前の道路下で漏水が見つかり、その工事のために、通水は3月末になるということです。

湧水なのに「なぜ水が流れたり流れなかったりするの?」「湧水は地表にわき出した水なのに、湧水が漏水するって何のこと?」と不思議に思われるでしょう。

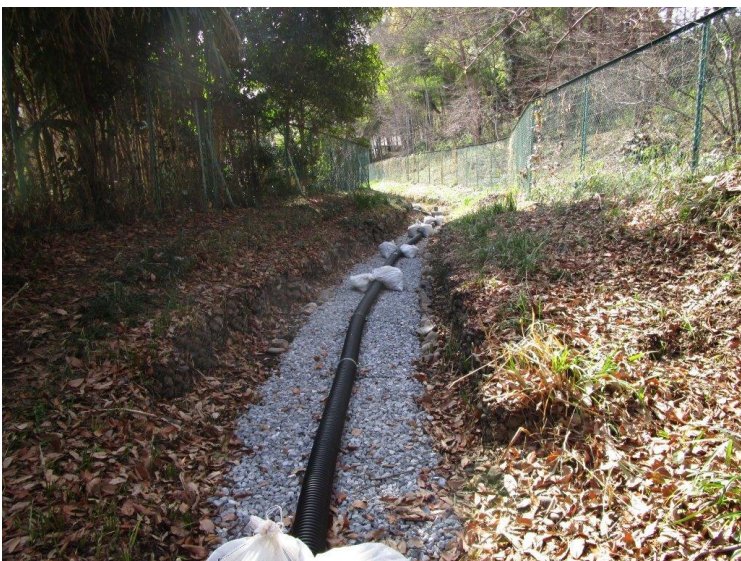
湧水の源は、不動の滝の向かい、浄蓮寺下のマンホールです。もともと湧き水が多いところだったので、集水管(穴の開いた管)を地中に入れて水を集め、マンホールにいったん溜め、道路下をパイプで導水し、池田園の裏から地表に出て、城址の斜面下を水路(元からある水路ではなく、新たに作った水路)で流れる構造になっています。このあたりは、昔はため池にたどり着く小さな川があったところですが、地下水位も低下しており、全体に盛り土されていると思われ、さら



につくられた湧水水路が地盤のやや高い山裾を流れるため、水が漏れるのは自然の成り行きでもあったのです。先のマンホールには湧水を下水に排水できる構造になっていて、まるで水道の蛇口のように開けたり閉めたりして湧水量をコントロールすることもできます。山里とは違う都会の複雑な湧水事情です。

水路は30年ほど前「ホタルの水路」として整備され、ホタルの季節には賑わったのですが、ホタルもやがていなくなり、いったん再生した水路も、私たちボランティアが清掃し穴を塞いだりしても水漏れがひどく、水が池まで流れなくなって、水路の修理を区役所にお願しました。修理後私たちが水路の維持管理を続ける自信がなかったのでパイプで池近くまで導水する方法を選びました。

崖下の水路はため池近くまで200m以上あり、このうち140m程がパイプになりました。





## 1 自然でなくなったところもある

流水が見えないパイプは、人工的で自然ではない、と、後ろめたさを感じます。が、割り切ってここは水をあきらめ、日当たりのよい場所なので、林縁のマント群落が隣家の池田園の迷惑にならない程度に育ってほしいなあと思っています。

## 2 半端じゃない水量の水がくる

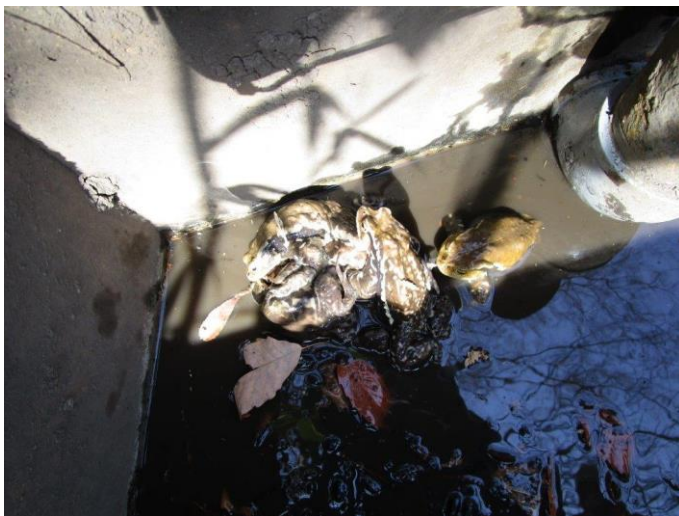
水源の湧水量は20リットル/分かそれ以上あるので、パイプで送水されるとロスなしで吐き出されます。水道を全開にして出しっ放しにした位の水量です。湧水は雨が地面にしみこんで出てくるので、降雨量が多いと湧水量も増えます。こんな大量の湧水を利用した経験がありません。

## 3 湧水がため池まで流れる水路にどんな自然がよみがえるのだろう

フェンスに囲まれた狭い林縁の空間とそこに流れる湧水。ここはサンクチュアリです。どんな自然になるのだろう。私にはザリガニがさらさら流れる水を好むとは思えない（思いたくない）。泥だめには真田さんがつくったザリガニ返しがあるし。釣巻さんに石の下にいるヘビトンボを見せられたし、以前見たハグロトンボがまた来ないかしらん、等々いろいろ想像しています。

## 4 水路最下流の泥だめを清掃したら、20匹ほどのカエルがひしめいていた。

池の水がなくなってカエルも困っただろう、2月28日、たくさんのカエルが大きくて深いため池に行かずにこの狭い泥だめに集まっているのでびっくりしました。カエルが20cm程の団子状になっているものや、団塊に参加せずに離れているものなど、20匹以上はいたようです。団子の中心には雌がいたのでしょう。カエルも大変です。猪鼻さんはみんな雄だと断言しました。3月14日様子を見に行ったら、やはりカエルの卵塊が一つだけでした。もうカエルはみんな山に帰ってしまって1匹もいませんでした。ここはカルガモにも目に付きにくい場所です。水路のどこかに水たまりがあればカエルも産卵に利用できるかもしれません。



わかりにくい写真ですが、中央のボール状のものは、次々と抱きついたカエルが団塊になったもの。団塊から離れたところにもカエルがたくさんいた。

真四角な泥だめなので、脱出用の木を入れておいたところ、卵だけ残してカエルはいなくなっていた。

4月に入ったら、トンボ池の現状をよく観察して勉強しながら湧水を大切に上手に利用してトンボ池を再生し、水路も元気にしたいですね。楽しみです（坂本 郁子）。

# 水のない トンボ池 を見る

写真は3月15日の池の様子です。梅まつりの来場者に水のない池をお見せすることになってしまいましたが、それも悪くありません。

このくらいカラカラに干上がると池底のヘド

ロも分解されます。ものは考えようで、池底浄化のよいチャンスとなりました。

露出した池底に整然と並んだ石はいったい何？と思われるでしょう。ビオトープ池になる前、ここにコンクリートの池があり、梅まつりのステージはこのコンクリートの池の水を抜いて設営されていました。せまい公園内でビオトープ池をつくりたい、でも梅まつりのときにはステージにも利用できるように、という配慮から設計者はステージの土台になる杭を入れました。それがこの並んだ石です。池底には分厚いゴムシートが敷いてありますが、このコンクリの杭や池縁の石との間の隙間から当然水は漏れます。はじめから計画した水位はほとんど維持できませんでした。「なんと中途半端なことを！」と思われるでしょうね。自然を取り戻したいと思っても、様々な制約があり、その制約の中での取り組みです。もうちょっと何とかならないか、ともどかしく思うことも多いのですが、現状は現状として、そのなかでどんなことができるか、みんなで考えています。

橋の右側の池（写真右下）は、杭がないので水漏れは少なく、水面は小さくなくても中心部に水が残ります。こんな小さな水たまりに今年もカエルが卵を産みました。梅まつりの参加者もカエルの卵を見つけていきます（坂本郁子）。





## 観察と活動の記録

### 1月15日(土) 大仏下ミニトンボ池 泥さらえ、水路の掃除。

かなりの腐敗臭がした。ヘドロは積み上げ、放置された枯れ枝を集め、水路に覆い被さっていた枝を切った。また不要の枝でつくったソダを池に沈めた。サービスセンターに枯れ枝等の処分を依頼。ザリガニ10匹。

### 1月24日(土) バッタ広場 作業

ササ刈り、セイタカアワダチソウ抜き取り、草むらに蛾(コテングアツバ)

### 2月21日(土) トンボ池と水路の清掃

梅まつりなので、池にたまった落ち葉と枯れ草を清掃。狭い敷地なので枯れ草や落ち葉の置き場所に苦労する(落ち葉も堆積すると下草が育たない)。水路に水が流れると、湧水が水路からため池に流入することになるので、水路最下流の泥だめを清掃した。長年たまったヘドロは黒くてすごい悪臭。水路の石の下にヘビトンボの幼虫。

### 2月28日(土) バッタ広場ササ刈り(青々しているのはササばかり)

池では棚田に卵もあったがカエルが数匹来て小さな池でバシャバシャとかき回していた。橋の右側の池にもカエルが数匹。水路では水路際にジロポウエンゴサク、清掃した泥だめカエルが20匹くらいひしめいていた。脱出用の枝を入れておく。

### 3月14日(土)、15日(日) 赤塚梅まつりに出展



写真上：輪切りにした枝に絵を描いてペンダントをつくる。

写真右：カエルの卵。カエルたちは姿を消してもういなかった。

2年前まで3月の第1土曜日と日曜日に開催されていたが、昨年からは第2週に変更され、開始時間も10時と1時間早くなった。1週間ずれるとずいぶん暖かく、人出も多く工作も人気で、ノコギリ体験では竹もほとんどなくなり、ペンダントづくりには310人の子どもが参加した。



# 活動のお知らせ

運営委員会：3月28日（土）、4月18日（土） 12:30～13:30

作業・観察会の後にラーメンしらかばで報告や活動内容などを相談します。

27年度活動計画をまとめます。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：5月16日（土） 12:30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

## 第19回総会のお知らせ

日時：4月25日（土） 10:00～11:30

場所：三園1丁目集会所（板橋区三園1-36-6）最寄り駅：西高島平  
大宮バイパス側道を陸橋で左折し最初の道を右折して突き当たりです。

活動予定いろいろ

1 赤塚トンボ池の現状調査・検討および試しの水入れ？（雨でも実施します）

4月18日（土） 10:00～12:00 トンボ池前集合

講師：水研クリエイティブ（株）尾坂尚之さん

いよいよ池の改善作業のスタートです。例によって何がはじまるかわからないので、長靴などを準備して来て下さい。

2 赤塚ビオトープの観察と環境整備 いずれもトンボ池前集合。

3月28日（土） バッタ広場の手入れ

5月16日（土） 10:00～12:00 未定

3 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物を観察、様子を見て林縁の草取りなど）野草の花も楽しみです。

4月4日（土）、5月2日（土） いずれも10:00～11:30 日暮台公園前集合

●ビオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。活動の内容は、身近な動植物を観察しながら、大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったり等々です。一緒にやりませんか。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。